

墨田区基本構想審議会委員より寄せられた、
「まち全体として大切にしていけるべき理念」(34件)

ものづくり・伝統・新旧融合

- ・「ものづくり」の姿が道端から見て楽しめるまち。
- ・伝統と革新が融合したまち。
その街の古くからあるものを再定義して、新しい価値を生み出すような、新しさの中に街の歴史を感じさせる都市開発を行うべき。
- ・単に壊すのではなく、使われなくなった廃工場や旧校舎、旧行政施設をリノベートして、クリエイターやものづくり、体験、コミュニティの拠点を作り、古いものを活かしてほしい。
- ・ものづくりの場の見学・体験を通じて子どもたちに墨田区がもつ力の実感を。
- ・ものづくり産業の伝統や技術を、新しい産業に活かす。
- ・従来からの地域特性に応じた整備の実施。(新旧に軋轢を生じさせない調和)
- ・新しく集まってくる人だけでなく、古くから暮らしている人も大切にする。
- ・歴史が感じられる地名と建物名の継承。
- ・歴史や文化に恵まれた特性(日本を代表する葛飾北斎の魅力、音楽都市すみだ等)を活かし発展させるべきと考えます。美術館、音楽ホールでの文化活動を通じ、文化を身近に感じ続けていく環境があることで、区民のシビックプライドにつながるとともに、まちの大きな魅力となって、人が訪れて賑わい、まちを元気にしていけると考えます。また、文化芸術は国境を越えて世界に通じるとともに、文化芸術が人の心の拠り所になり、精神的な支えとなって、社会課題の解決にもつなげられると考えます。

つながり・共生

- ・誰も孤立させないまち。
- ・墨田区は下町情緒あふれる街だと思いますが、近年タワーマンションや集合住宅が多く地域のコミュニティが薄れていると思います。そこで地域のコミュニティを活性化し共生社会が実現できる街づくりが理想だと思っています。
- ・コミュニティ強化のためにも、地域活動の担い手である町会・自治会の影響力を強めていくべき。
- ・まち(地域)、人情等を大切に、町内住人などとの繋がりを強化し、人と人との交流を深めるべき(地域の清掃ボランティア活動を通じて)。
- ・区内在住者・来訪者ともに「こちよく」暮らし、過ごすことのできる「人」中心のまちづくり。
- ・歴史や自然を意識して日常やイベント参加(例えば「お祭り」)などに楽しく豊かな気持ちで暮らしていける町。
- ・様々なまちづくり活動を横に繋ぐネットワーク組織が必要ではないか。

うるおい、自然、公園

- ・限られた中であっても自然との調和を意識したまちづくり。
- ・自然を感じ、触れられる環境と景観。
- ・コミュニティ空間として道路や公園を利用する。

- ・路地園芸（沿道緑化）と公園などの農園化の文化。
- ・墨田区には大横川をはじめ、小さな川が住民のうるおいになっており大切にすべきである。他の区によっては川を暗渠するなどあってはならないと思う。
- ・河川を活かしたまちづくり、コミュニティを増やしていく。
- ・北十間川等の内部河川の水辺空間整備と、舟運利用の検討をして墨田区の独自性をアピールしてはどうか。

安心・安全

- ・安心安全ファーストのまち。
- ・災害に強いコミュニティ、インフラと建築などの基盤整備。
- ・住民協働により安心安全なまちづくり推進に向けた意識の醸成。
- ・車中心ではなく、歩行者や自転車に優しいウォークアブルな道路空間が必要。

上記に分類されないもの

- ・観光資源を活かすまちづくりをすべき。
- ・区民の声を吸収し反映できる仕組みの整備を。
- ・区の発展に力となる多様な人材の呼び込みを。
- ・「まち」と「ひと」との関係の整理が大切に感じる。「まち」があつて、そこに「ひと」がいるのではなく、「ひと」がいて、「まち」を作り上げているという概念を上手くソフト面の「まちづくり」に表現できると良いと思います。
一方で、ハード面でのまちづくりでは、「安心して、楽しく、安全に」生活ができること、仕事ができること、訪れてみたいと思っただけのこと。そのためにどのような公共・基盤整備やスタート時のキッカケ作りをしていくかを考えることが重要でしょう。
- ・墨田区のまちの特徴は、特に、密集した地域では、家と家の間の境目があいまいであり、塀のような明確な境界が無いことから、人が通り抜けられる路地が多いことです。家と家の間の隙間が単なる隙間ではなく人が通ることができることで、町全体の一体感が増しています。ここに敷地境界を示すブロック塀を立ててしまうと、たとえ低いブロック塀であっても人の行き来が無くなってしまいます。隅々まで人が通ることができることで、死角が亡くなり防犯の面でも効果的です。また、これらの路地空間に接続する位置に井戸を設置し、通常は水を通じて子供達が遊び、災害時には水源となる地域防災のしくみが地域の交流を生む井戸端となり、墨田区ならではのまち、景観となるはずです。
- ・これまでの墨田の街づくりは産業構造的な中核的まちづくりとして、錦糸町、両国、スカイツリーと押上、曳舟、そして自然環境づくりを兼ね備えた鐘ヶ淵地域等があり、これらを核に交通網も充実してきました。この結果、全体的なイメージは「来てよかった」という点に力点が置かれてきたと思います。
- ・これからの力点は、「住んでよかった」「住みたい街」づくりではないでしょうか。私は老人クラブをしているので、この立場から見ると、「老人には住みにくい街」「追い出される街」になりつつあります。老人が「住んでいて良かった」と思えるような街づくりが、心のかよった街づくりになると確信します。

※アンケートの原文ママで意見を掲載しています。